

大人のレッスンシリーズ

# ドラムを叩こう!



# Contents

## 1章 ドラムを知ろう

1 ドラム・セットの名称	4
2 スティック	6
3 スティックの持ち方	8
4 姿勢とセッティング	10

## 2章 リズムを知ろう

1 音符の長さ	12
2 拍子記号	13
3 ドラム譜の読み方	14
4 ビートの種類	16

## 3章 基礎編

1 ストロークの種類	18
2 スネア・ドラムの叩き方	22
3 パス・ドラムの叩き方	24
4 ハイハットの叩き方	26

## 4章 実践編

1 リズム・パターンの基礎練習	32
2 16ビートを叩こう	36
3 シャッフル・ビートを叩こう	38
4 フィルインを叩こう	41
5 ライド・シンバルとクラッシュ・シンバル	44
6 実践編まとめ	47



## 5章 ジャンル別リズム・パターン

1 ロック	50
2 ポップス	52
3 ボサノヴァ	54
4 ディスコ	54
5 ファンク	55
6 ブルース	55
7 スウィング	56
8 3拍子	56
9 6/8拍子	57

## 6章 ドラム・スコア

1 Paranoid	59
2 LOVE GUN	64
3 Smoke on the water	71

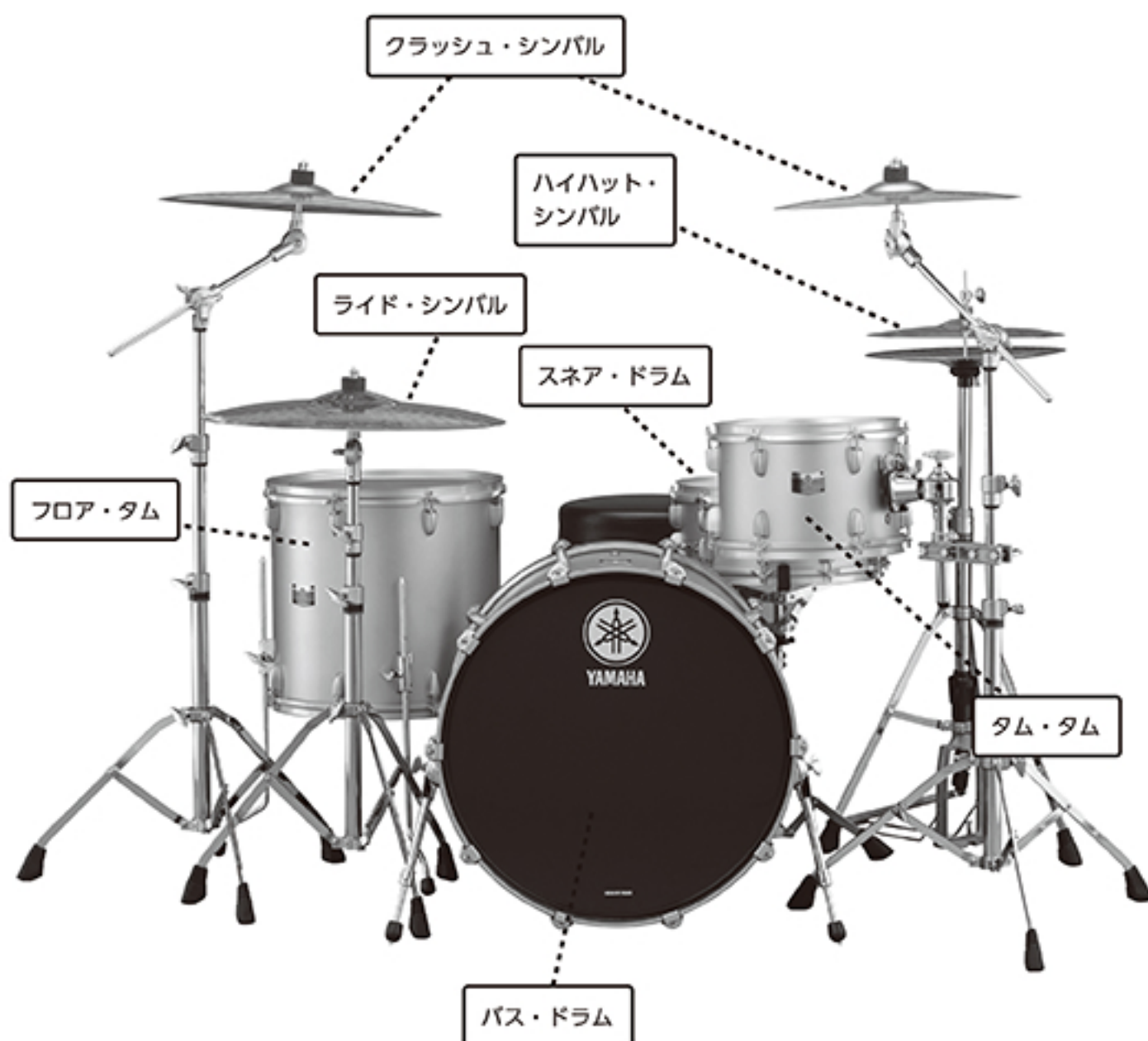
# 1 章

## ドラムを知ろう

ドラムを叩く前に、種類や構造、揃えておきたい小物や練習できる場所などを確認しましょう。

### 1 ドラム・セットの名称

ドラムはスネアやバス・ドラムなど様々な太鼓が組み合わされており、どれもが欠かせない大切な役割を担っています。ここでは代表的なドラム・セットを見ていきましょう。



各楽器の詳細になります。

### ●バス・ドラム



▲もっとも大きい太鼓で、低い音で鳴ります。専用のフット・ペダルを使って足でプレイします。

### ●スネア・ドラム



▲主にバックビート(2、4拍目)にアクセントを付ける太鼓です。

### ●タム・タム



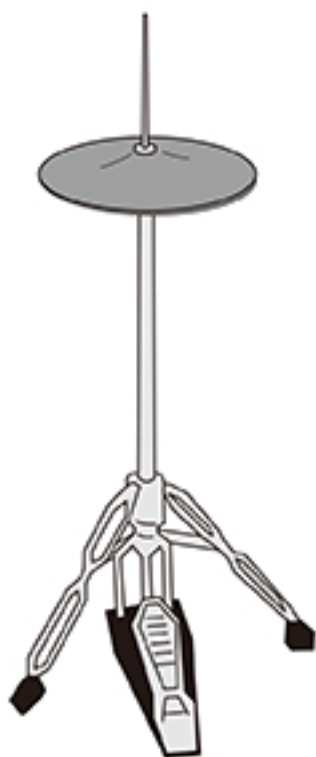
▲フィルインと呼ばれるリズムで使われ、様々な大きさのものがあります。口径が小さいほど高い音で鳴ります。

### ●フロア・タム



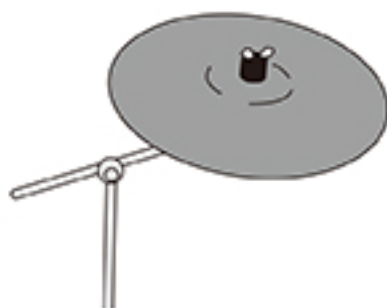
▲もっとも口径の大きいタム・タムで、低い音が鳴ります。

### ●ハイハット・シンバル



▲シンバル2枚が合わさったもので、専用のペダルで開閉しながら叩きます。主に細かいリズムを刻むものです。

### ●クラッシュ・シンバル



▲「ジャーン」という大きなアクセントを鳴らすもので、ライド・シンバルよりも小さく薄めです。

### ●ライド・シンバル

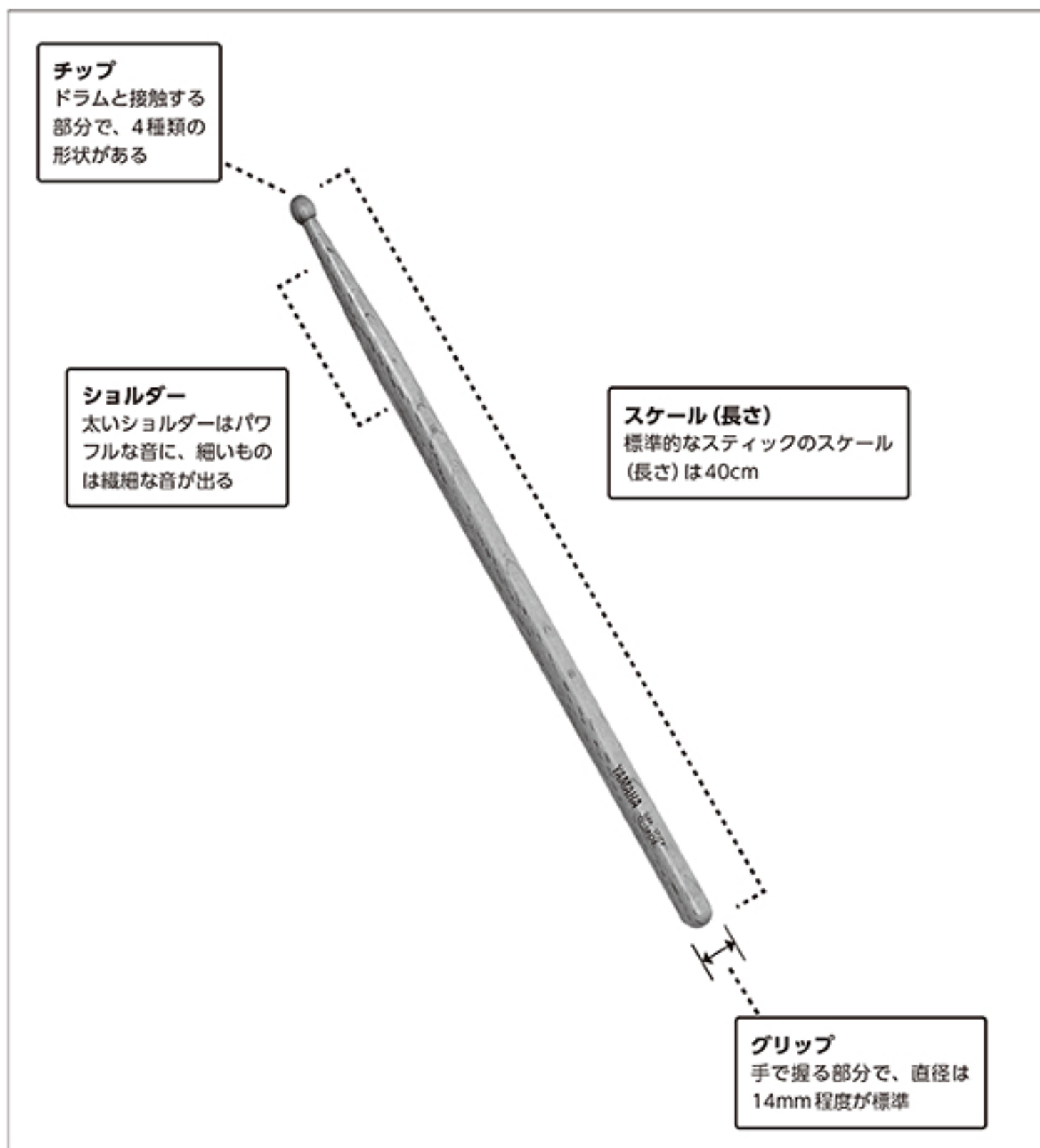


▲ハイハット・シンバルと同様に細かいリズムを刻むシンバルです。叩く位置によって音色が変化します。

## 2 スティック

スティックとは、ドラムを叩く棒のことで、材質、大きさ、重さが異なる様々な種類があります。

### ■ スティックの構造



## チップの形状

チップの形状は主に4種類あります。

### ●丸型



▲どの角度でも安定した音を得られるので初心者向きです。

### ●四角型



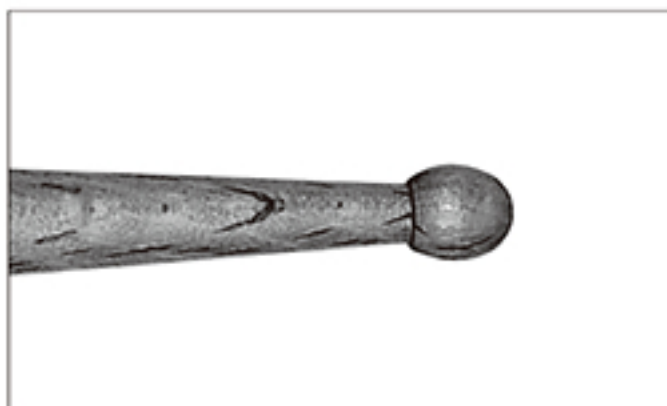
▲丸型と同じタイプで、初心者向きです。

### ●三角型



▲ドラムを叩く角度によって音が変わるため繊細な表現に向いています。

### ●卵型



▲各種シンバルのアタック音がやや繊細になります。

## スティックの材質

材質は主に3種類が使われています。

名称	特徴
ヒッコリー	もっとも一般的な材質で、ほどよい重さと適度なしなりがあり様々なタイプのプレイに適応できます。
オーク	固くて重い材質で、耐久性があります。パワフルなプレイに向いています。
メイプル	固くて軽い材質です。繊細なプレイ向きです。

### 3 スティックの持ち方

持ち方にはいくつかのタイプがありますが、ここでは一般的なマッチド・グリップを覚えましょう。

#### ■ マッチド・グリップの持ち方

##### ●手順1



▲スティックのグリップエンドから3分の1あたりに人差指の第一関節をあてます。

##### ●手順2



▲親指を人差指と同じ位置にあてます。

##### ●手順3

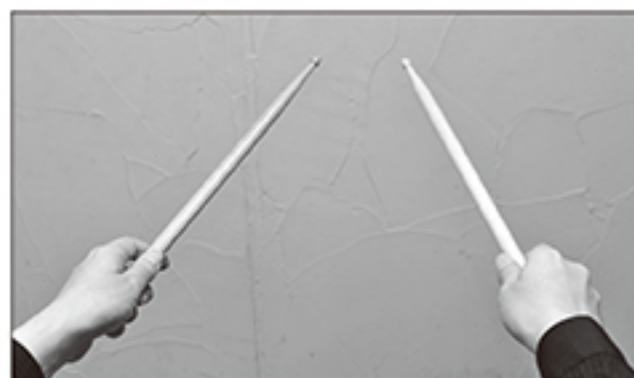


▲残りの指を軽く添えます。





マッチド・グリップは左右とも同じ持ち方です。引っ張っても動かない程度の軽めの力で握りましょう。



音楽のジャンルなどによっては持ち方を変えることもあります。ここでは各叩き方の詳細は割愛しますが、マッチド・グリップで叩けるようになったら挑戦してみるのもよいかもしれません。

持ち方	特徴
レギュラー・グリップ	ドラム特有の持ち方で、マーチングバンドでよく見る持ち方です。
フレンチ・グリップ	親指が真上にくる持ち方で、指を使ったコントロールがしやすいです。
ジャーマン・グリップ	手の甲が真上にくる持ち方で、手首の稼働が一番広く使えます。
アメリカン・グリップ	ジャーマンとフレンチの中間ぐらいの持ち方です。

## POINT スティックの選び方

スティックは様々な種類が販売されています。購入の際にどれを選べばよいか悩んだら、以下の3つのポイントをチェックしましょう。初めは楽器店の店員に相談しながら選ぶとよいでしょう。

### ①まっすぐなスティックを選ぶ

スティックを選んだらまず平らなテーブルの上などで転がしてみましよう。そうすれば、スティックが曲がっているかがはっきりわかります。

### ②同じ重さのペアを選ぶ

木材ですから重さが均一とは限りません。秤で計って±3g程度なら合格です。

### ③太さと重さ

手の大きさによって握りやすい太さが違うでしょう。実際に握ってみてしっくりくる太さのスティックを選びましょう。重さも自分にとって叩きやすいものを選ぶことが大切です。

## 4 姿勢とセッティング

### 椅子の高さ

床にかかとを付けた状態でひざが緩やかに曲がった状態にします。椅子には浅く腰をかけます。



### ペダルのセッティング

自然に足を広げた位置にハイハットとバス・ドラムのペダルを置きましょう。

